非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8　TEL076-251-0014
郵便振替口座 00760-0-15689　会報込年会費 3000 円

2016 年 11 月 20 日　月刊第 220 号　発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1 面　国連総会第一委員会が決議　原　和人
2 面　2016 年平和大会・参加報告　渡辺裕子
4 面　安倍政権の「壊憲」暴走を阻止する―マスメディアの問題と市民の役割　講演要旨　北村　肇
5 面　ワンネススクールに『はだしのゲン』を寄贈　小野栄子
6 面　12・10 市民連合シンポジウム　開催案内
6 面　＜エッセー＞核兵器禁止・廃絶につながる画期的な一歩　秋元邦宏
6 面　＜独標＞発芽するもの　泳ぐもの　安田桂子
7 面　非核の会結成 30 周年記念シンポジウム
8 面　シリーズ 石川の地域点描　中西　優
8 面　絵手紙コーナー　徳田清子

国連総会第一委員会が決議
核兵器禁止条約交渉開始を採択
全国の会常任世話人　原 和人

国連総会第一委員会と同じ一〇月二八日（現地二七日）、非核の政府を求める会（全国の会）常任世話人会が開催されました。この会議に参加された全国の会常任世話人の原和人さんから会議模様が編集部へ届きました。報告をご紹介します。

核兵器禁止条約の交渉開始を決議した国連総会第１委員会
（10 月 28 日、国連本部ビル内）

協議事項の最初に、当日朝、国連総会第一委員会で採択された「核兵器の禁止条約」の交渉開始に関する決議について意見交換を行った。

藤田俊彦常任世話人から、この決議の概略の報告があった。

「核兵器禁止条約の交渉開始の決議」は、今年ジュネーブの国連欧州本部で開催された「作業部会」の決議に基づくもので、正式の決議案は「核軍備の縮小撤廃に関する多国間交渉を推進する」というもので、オーストリア、メキシコなどが中心になってまとめ、五七カ国の共同提案になった。

決議は、一二三カ国が賛成し、三八カ国が反対、棄権一六カ国によって採択された。

12・3 非核の政府を求める会結成30周年記念シンポジウムに石川の会事務局長がパネラーとして活動報告します。（関連・七面）

花鳥風月

米大統領選挙の結果は想定外であった。有力政治家もメディアも予測が狂うほど国民意識の変化が急なのだろう。EU、中近東、東アジアでも同様に政治に対するやり場のない不満が噴き出して思わぬ結果に導かれている。そこで示されているのは、諸勢力の利害を調整し、妥当な線に国を導く処方箋とは思えない▼日米の現実では、米軍撤退をちらつかせて駐留経費の負担増を迫ったり、北朝鮮を引き合いに出して日本の核武装容認まで匂わせたりして政権に格好の口実を与える虞（おそれ）がある。米の核戦略がおいそれと変わるとは思えないが、ゆるぎないと思われた日米同盟に予測できない隙が生じたと見るのは早計か。世界でも日本でも、多数構築の努力を放棄した政治の劣化の結果としか見えない▼世界を見渡して着実な変化を生んでいるものがある。温暖化対策のパリ協定を成立させた環境運動や、核廃絶に向けて条約締結に踏み出すことを決めた反核運動など、地球上の多数の民に基盤を置く国際世論である。抵抗する大国を包囲しつつある国際世論と、大国に追随する自国政府を変えるために、多数を獲得しようと努力する草の根の運動との協働こそが力である。（I）

核兵器使用禁止と完全廃棄まで

この決議の中心は、最初に「考慮し」とあるように、この間論議されてきた「核兵器の人道的な結末」の延長線上にあること。また「核兵器を禁止し、核兵器の完全廃棄に至る法的拘束力のある文書を交渉して取り決める」ためにおこなうこと。またこの会議は二〇一七年三月と六月から七月にかけてニューヨークで開催されること。そしてこの会議の結論は、二〇一七年の国連総会に報告されること。などの内容となっている。

注目すべきところは、「核兵器の使用禁止」だけではなく、「核兵器の完全廃棄に至る」という内容まで含まれていることである。

決議は、すべての国連加盟国にこの会議への参加を呼び掛けているが、「会議に参加する国々に対して、核兵器を禁止し、核兵器の完全廃棄に至る法的拘束力のある文書を可能な限り早急に締結するため最善を尽くすよう」訴えている。

プラハの約束はどこへ

この国連決議について、意見交換を行った。この決議に対して、アメリカがＮＡＴＯ加盟国に反対を迫る文書を配布し、フランスがアフリカなどの旧植民地国に対して、賛成しないように強力に働きかけたと報じられているが、アフリカ諸国、東南アジア諸国、中南米諸国などの非同盟諸国は、これらの脅しに屈せず、核兵器の禁止の立場を貫いたことが大きく評価された。

日本政府へ怒りと抗議の意見

この間、非核の政府を求める会として日本国政府に対しては外務省に、今国連総会で核兵器廃絶に向けて、積極的な役割を果たすように要請してきたにもかかわらず、決議に反対したことに、出席した各常任世話人からは怒りと抗議の意見が出された。

被爆国・日本は恥ずべき「反対」

今回、決議に反対した理由を、岸田文雄外務大臣は、「核兵器のない世界を実現するためには、核兵器国と非核兵器国の協力による具体的、実践的な積み重ねが必要だ。決議は双方の対立を一層助長し、亀裂を深める」と説明したが、従来から二つのグループの対立は存在し、日本国政府はこれまでこれらの決議に「棄権」してきた。

今回、「反対」の立場を明確にしたことは、その「本音」を明らかにしたと言える。

日本国政府は、これまで核兵器国と非核兵器国の橋渡しを行うという立場をとってきたが、非核兵器国からは相手にされなくなるだろう。これからは、「唯一の被爆国」という表現を日本国政府は使うべきではない。

条約交渉への参加資格は？

岸田外相は、来年の核兵器を禁止する条約交渉の会議に参加すると言っているが、決議には、「参加国は、核兵器の禁止に向けた速やかな努力をすべき」と訴えており、「この条約に反対するのであれば、参加をする資格はない」などの意見が出された。

今回日本が「反対」の立場を明確にしたのは、日本などが提案している「核兵器のない世界に向けての共同行動」に対して、昨年アメリカは棄権した。今回アメリカは賛成したがこれとの取引があったのではないかという意見も出された。

（表題と中見出しは編集部）

二〇一六年平和大会・参加報告

日本に米軍基地があっていいのか？

渡辺裕子

今回初めて日本平和大会に参加させていただきました。十月二二日、二三日に行われた大会の前日、青森県三沢市に入り、実際の基地訓練の様子を三沢空港の展望台から見ることができました。ちょうど何機かの戦闘機がタッチアンドゴーや低空飛行をしていました。普通に着陸するのと低空飛行で滑走路を通り過ぎていくのとでは、騒音が全く異なり、その違いに驚きました。こんな騒音に日々さらされて生活している地元の皆さんの苦痛は、想像もできません。

三沢の米軍基地を見学

大会初日の午前中も再び三沢空港にいって基地を見学しました。土曜日で訓練はやっていませんでしたが、ガイドの方が手前にあったゲートについて説明してくれました。あのゲートの向こうからが米軍基地で民間機が来た時だけゲートをあけて民間機を入れることや、以前お盆の時期に米軍基地が改修工事を行ったため、一番民間機を利用する人が多い時期に飛行機が出せなくなったことなどを聞き、本当にここは日本なのだろうかと思

うような現実を突きつけられました。そのあと基地による爆音被害によって消えた集落を見に行きました。

四川目地区は戦闘機が滑走路を離着陸するコースの真下にある集落で、「騒音が昼夜の区別なく激化し実に言語に絶する」と記した石碑を跡地に建て、神社とお墓を残して、地区全体の三八八世帯のうち二五一戸が、大津地区へ集団移転したことを知りました。移転あとはここに生活があったとは思えないほど何もない野原になっていました。ガイドの方が以前の様子を写した写真を見せてくれましたが、面影がなくなっていました。

その後、移転先の大津地区もみましたが、あまり離れておらず、本当にここに移って問題は解決したのだろうか、と思ってしまいました。

閉会集会での石川県参加者（左端が筆者）

「自分の生活拠点を移すということはそんな簡単なことじゃない」と福島からきた方が言っていましたが、本来なら米軍基地にこそ出ていってもらうのが筋なのに、元々住んでいた人たちが出ていかなければならないのはやっぱりおかしいと思いました。

青森の基地面積は全国第二位

開会集会では、会場いっぱいで熱気を感じました。国会議員のあいさつでは伊波洋一参議院議員、高橋千鶴子衆議院議員、田名部匡代参議院議員が揃い、野党共闘の成果を感じられるあいさつでした。高橋議員のあいさつの中で青森は沖縄に次ぐ基地面積第二位で風力発電は全国一位だとおっしゃっていたように思いますが、米軍基地に頼るのではなく風力発電のような日本の未来にとってもプラスになる再生可能エネルギーなどの独自の産業での発展こそ必要だと思いました。

映画監督バクレーさんの三沢レポートを視聴して、米兵に話を聴いているシーンで米兵が「ヨルダン、シリアから戻ってきたばかりだ」と答え、「何していたのか」と聞くと「空爆」とさらっと答えている姿が、恐ろしく感じました。

「基地はあったほうがいい」と三沢市内の高校生たち

二日目の分科会では、私は「入門編三沢基地って何やってるんですか？～とことん疑問に答えます」に参加しました。助言者は安保破棄中央実行委員会の小泉親司さんでした。最初に地元の青年からの報告があり、青森市内と三沢市内で高校生を対象に基地について聞き取りをおこなったところ三沢市内の高校生の多くが「基地はあったほうがいい」と答えたという報告に驚きました。

報告者からはこの結果について、米軍基地の役割が知られていないこと、気候の関係で作物がうまく育たないことや観光資源が乏しいことから基地に頼らざるを得ないという思いがあるからではないかとのことでした。

その後、小泉さんから米軍が環境破壊をしても、米兵が犯罪をおかしても責任を負わない仕組みや八五〇〇人近くの米兵が三沢基地にいて、三沢市の全人口の二割にもなることなど異常な対米従属の実態を聞きました。その後の分散会討論では小泉さんの話を聞いて出てきた疑問を出し合い、整理して班ごとに発表し小泉さんに応えてもらう。さらに、基地をなくすべきか、なくせるのかということを再び議論しました。

討論では「なぜ、騒音被害にあった人たちは沖縄のようにたたかわずに移転してしまったのか」「基地をなくすということは簡単なことじゃない。私の友達には、米兵の父親と日本人の母親をもつハーフの子がいる。その子の前で『基地なくせ』とは言えない」などそれぞれの思いも出されました。最後に小泉さんはまとめで「基地をなくせるかということより、日本に米軍基地があっていいのかということを考えてほしい。若い人がもっと議論していくことが大事」といっていました。

まずは知ることから

今回の大会を通して感じたことは、まだまだ自分自身がこの問題について、勉強不足だということと目の前の困難やものごとにとらわれずにそもそも日本にアメリカの基地があるということをみんなで真剣に考えていかなければならないと思いました。

まずは知ることから始めるのが大事だということ、そしてそれを地道だけど周りに伝えていくしかないと思いました。今回私を送り出してくださったみなさん本当にありがとうございました。

（民主青年同盟石川県委員会委員長）

□講演要録□
安倍政権の「壊憲」暴走を阻止する！
マスメディアの問題と市民の役割

「週刊金曜日」発行人　北村　肇

安倍首相の狙いは、「改憲」と見せかけた「壊憲」

安倍首相はかって九六条改憲を打ち上げたことがあったが、本当の狙いは集団的自衛権の行使容認の解釈改憲であった。世論調査でも「改憲反対」が多数を占めているなかで九六条改憲を持ち出しことはありえない。米国政府から日本政府への要求は、憲法条項の改正ではなく解釈改憲である。

「憲法」を自分たちのものにしよう、と力説された北村肇さん

次に狙ってくるのは緊急事態法である。少し前に麻生副総理が発言したように、ヒットラーはワイマール憲法四八条を根拠に大統領に権限を集中させる緊急令の発動により、憲法を形骸化し全権委任法を成立させた。安倍政権はこの「ナチスの手口」を真似て、緊急事態法を成立させようとしている。憲法の条項改正＝「改憲」ではなく、「壊憲」が狙われている。従って憲法を守る運動だけでは駄目で憲法を活かす運動が求められている。

緊急事態法の次に狙ってくるのは現行憲法が「現実に合わないから」を名目にした改憲である。今年三月に安倍内閣は「核兵器の使用は憲法違反でない」「生物化学兵器の使用も憲法違反でない」との二つの閣議決定を行った。明らかに「武力による威嚇、武力の行使を放棄した」九条違反であるが、テレビや大手新聞はほとんど報道しなかった。

改憲派の国会議員が三分の二を占める状態が続くと、南スーダンへの自衛隊ＰＫＯ派遣に駆け付け警護を付与する、共謀罪の法制化、沖縄新基地問題、白紙領収書など「なんでもあり」が許され、憲法の形骸化が平然と行われていく。憲法を作り直す運動がいま重要になっている。

自民党「改憲草案」をチェック

前文、一三条、一八条、二四条、九七条、九九条について現行憲法を自民党草案はどのように改定するのか逐条的に解説した。（紙面の都合で割愛：原文を参照ください）

伝えるべきことを伝えないメディア

新聞の本来の役割は、ただ事実を伝えるだけではなく、いま何が重要なのか工夫して伝えることである。

七月二二日、政府が辺野古への新基地建設計画で翁長知事を再提訴したとき、東京新聞は翌日一面トップで報道したが、朝日新聞のトップ記事は「ポケモンＧＯ興奮上陸」だった。また八月二〇日、東村の高江で琉球新報と沖縄タイムスの記者がヘリパット工事の取材中に機動隊に拘束されるという言語道断の事件があったが、朝日、毎日、ＮＨＫは一切報道しなかった。沖縄のメディアを守らない本土メディアの姿勢が問われている。

なぜ沖縄を報道しないのか。日本政府は「沖縄の海兵隊は中国に対する抑止力として日本の安全保障に必要不可欠」と云っているが、沖縄に常駐する米海兵隊の主な任務は人道支援・災害救援である。米軍や米兵の特権を保障する日米地位協定の抜本的改定こそ要求し交渉すべきである。

放送を語る会の調査資料によると、報道ステーションとＮＥＷＳ23は昨年六月に安保法案に関する憲法学者へのアンケート結果を報道した。しかしＮＨＫは憲法学者一一四六人を対象にアンケートを行い、四二二人の回答があり、そのうち「違憲」「違憲の疑い」が三七七人（約九〇％）あったが、ＮＥＷＳ９では報道しなかった。報道したのは参院選後の七月二三日、クローズアップ現代で二分間だけである。参院選をめぐる報道や政治報道を回避し、自粛している。これが「戦争法」報道でみえた〝安倍首相のための〟ＮＨＫの実態である。

朝日新聞はリーディングペーパーであり、朝日新聞やＮＨＫが動けばメディアは変わる。しかし最近の朝日新聞には奇妙な中立ぶりがある。五月三日、憲法記念日に開かれた集会では、翌日朝刊は五万人が参加した護憲派集会と一一〇〇人が参加した改憲派集会をいずれも二二行の同じ字数で報道した。一方、同日の毎日新聞は護憲派の「憲法集会」を写真付きで五六行で掲載、改憲派の集会報道はない。ジャーナリズムは権力の監視と批判が立ち位置であり、中立はありえない。朝日新聞には何とか踏ん張ってほしい。

明るい兆しと私たちのすべきこと

ここでわれわれが頑張らないと憲法が壊され、独裁政治になってしまう。米国に対してもの言う民主国家よりは米国の命令に従う独裁国家のほうが好都合だから、これを何とか阻止しなければならない。

新潟県知事選挙の勝利で元気をもらった。野党共闘と市民の共同の力が発揮されたからである。民進党は連合から離脱して市民と連携すべきである。

われわれ市民は、「事実」と「真実」をつかんで運動しないと仲間が増えない。そのためには「週刊金曜日」を読んでほしい（笑い）。マスメディアのなかにも良心的な記者がたくさんいる。この記者たちと手を結び合って闘っていこう。「憲法」を自分たちのものにしよう。まずはひとりひとりの「怒」と「熱情」が原点である。子や孫たちのために手を取り合ってこの闘いに勝ちましょう。

（文責　非核・いしかわ編集部）

◎一一月三日、金沢歌劇座大集会室で開かれた「九条を守り、戦争する国づくりをやめさせよう！」石川県民集会における講演要録です。

核戦争を防止する石川医師の会

ワンネススクールに『はだしのゲン』を寄贈

戦後七一年が過ぎ、被爆者の平均年齢は八〇歳を超えました。被爆体験をお話ししてくださる方は少なくなり、被爆の実相をどのように子どもたちに伝えていったらよいのか、私たちは今大きな岐路に立っています。

石川県原爆被災者友の会では被爆証言を映像で残す作業を、二世の方は手作りの人形を使ってご自身のお父さんやお母さんの体験を語るなど、石川でも工夫を凝らした取り組みが始まっています。そんななか、核戦争を防止する石川医師の会は、漫画『はだしのゲン』（全一〇巻）を県内の小・中学校に寄贈する取り組みを行ってきました。これまでに八市町六五校に六六セットを寄贈。一〇月二一日に、金沢と鳥越に校舎をもつフリースクール「ワンネススクール」に寄贈したことで、六六校に寄贈したことになります。

生徒さんに『はだしのゲン』を寄贈する白﨑良明さん（右）

今回訪問したワンネススクール（金沢校舎）では、この日、一二人ほどの生徒さんが思い思いの時間を過ごしていました。そんな生徒さんたちに、『はだしのゲン』を読んだことがある人？」と聞くと、手を挙げたのは四、五人。そこで、当会代表世話人の白﨑良明医師は、作者の中沢啓治さんも広島の被爆者であることから話を始めました。

＊　＊　＊

中沢さんは二度と戦争の悲劇を繰り返してほしくないという思いで、自身の体験を一生懸命この漫画に描かれました。しかし、世界には今なお約一万五三五〇発もの核兵器があります。そのたった一発でも私たちの町に落とされたら、近くにいる人々は瞬時に消えてなくなってしまうほどの威力があるのです。それを知った生徒さんたちは、「信じられない」という風に驚いていました。このほか白﨑医師は、放射能の問題は後遺障害という形で今なお被爆者を苦しめていることや、二〇一一年に過酷事故が起きた福島第一原発の建屋内には高線量のために数十分いただけで死んでしまう大変危険な場所があること等に触れながら、「命を守る医師の責任として、戦争や核の恐ろしさを伝えるために『はだしのゲン』を寄贈しています。皆さんには、ゲンと友達になるつもりで読んでいただけたら」と訴えました。

白﨑医師の話を聞いた生徒さんは、「核兵器は遠い存在だと思っていたが、すごく身近な問題に感じた」「すぐにでも『ゲン』を読みたくなった」と感想を述べていました。近い将来、ゲンと友達になった生徒さんたちと、核廃絶に向けて一緒に取り組むことができたら嬉しいですね。

＊　＊　＊

私たち医師の会では、今年、志賀町への寄贈も予定しています。四校ある小・中学校には『ゲン』が揃っているため、今回は町立図書館に寄贈します。このことはまた次の機会に報告できればと思っています。

（事務局　小野栄子）

非核・平和のひろば

開催のご案内

いしかわ市民連合・政策シンポジウム

「生活保障に税金を使え！」

次期の衆議院選挙において野党共闘を実現するために、市民による政策づくりが求められています。シンポジウムでは、年金、介護保険、生活保護の問題を取り上げながら、生活保障のための政策や政治がどうあるべきかを議論します。ぜひ、ご参加ください。

記

日　時＝一二月一〇日（土）午後二時
会　場＝石川県教育会館三階ホール
報告者（三分野より）
「わたしたちの暮らしのなかで起きていること～年金、介護保険、生活保護」
助言者　井上英夫（金沢大学名誉教授）
コーディネーター
河合隆平（いしかわ市民連合共同代表、金沢大学准教授）
柴田未来（弁護士）

非核石川の会　リレーエッセー

核兵器禁止・廃絶につながる画期的な一歩

秋元邦宏

「核兵器のない世界」へ国際社会は画期的な一歩をふみだした。先月末、国連総会第一委員会は、核兵器禁止条約などを交渉する国際会議を来年に招集するとした決議案を圧倒的な賛成多数で採択した。胸躍る世紀の大ニュースである。

「核兵器を禁止しその全面廃絶につながるような法的拘束力のある法文書」の国際交渉が、世界の市民社会も参加して、来年三月と六～七月に国連で開催されることになる。

広島、長崎に投下された原爆で、街は一瞬にして灼熱の地獄と化し、その年の暮れまでに二〇万人以上が亡くなった。許されざる無差別・大量殺戮兵器の出現だった。しかし、この凄惨な現実を前にしても、そして、核兵器禁止を求める世界の運動にもかかわらず、「核抑止」をかざした大国による核軍拡は止まらず、幾たびかの核戦争の危機も経ながら今日に至っている。いまなお一万五千発を超える核兵器が存在するという。核兵器禁止・廃絶は、人類の死活にかかわる緊急課題である。

そして、ついに扉が開かれた。被爆者を先頭にした核兵器の非人道性の告発と緊急廃絶を求める長年のたたかい、世界の人々と諸政府の努力が、核に固執する勢力を追い詰め、核兵器の禁止＝違法化へと歴史的な一歩をふみだした。

アメリカは、今回の決議案に反対するよう各国に書簡を送って強力に圧力をかけたという。核兵器禁止条約で、核兵器の生産、保有、使用だけでなく、他国への核兵器配備や核兵器搭載艦の入港も禁止されることになる。「核」をよりどころにした世界戦略が大打撃をうけるからだ。

こうしたなか、世界に失望と憤りを広げたのが、唯一の戦争被爆国である日本が決議案に反対票を投じたことだった。アメリカと「核密約」を結んでいる日本政府が、被爆者と国民の願い、人類の根本的利益を裏切ってアメリカに付き従う恥ずべき姿を世界にさらした。

こんな自民党政治にけっして未来はない。「非核の政府」実現は、世界に対する日本国民の責務だ。

詩人会議かなざわ「独標」より

発芽するもの　泳ぐもの

安田桂子

誰が種を蒔き
いつ宿したのか
そ知らぬ顔で
私の胎内に棲みつき
気づかぬうちに育っていた
不可思議な生物
（発芽の気配も見せず
息を潜めて花の開く季を待ち）

不幸中の幸いでした
まだ固い蕾のままです
これは死に至る猛毒を持つ花
花が咲き　種をはじけばあっと言う間です
すぐに摘み取りましょう
ご安心下さい
抗癌剤という良く効く優れものの枯葉剤
撒けば根こそぎですよ
きれいさっぱりとね
もう一つの　これが曲者
腹水で魚みたいに自在に泳ぎ
体の奥深く
臓の襞に卵を産みつける
すばしこくて捕えにくいのですが

大きく投網を打ち　やれるだけやりましょう
一網打尽とまではいきませんが
大丈夫、大丈夫ですよ
心配御無用　ほんのしばらくの辛抱です
と　若い外科医はにっこり笑い
さわやかに告げる

岸辺の　痩せて乾いた私の土地に
何処からか　種子を飛ばし
根を張り
ほそい水路を巡り
しぶとく生きようとするものがいて

《編集室より》

◎今、金沢市第二庁舎の上空連絡通路問題が熱い。市民の良識が市当局と議会を追い詰めている▼二〇一三年一二月、議会は老朽化した（？）議場の移転を山野市長に要望し、新たな庁舎整備方針を決定▼昨年二月、議会と危機管理センター、外郭団体が入る「第二庁舎＝議会棟」を建設する基本計画を策定。庁舎間を移動する際、風・雪・雨・濡れずに移動できる連絡通路の検討も入れた▼昨年九月、議会特別委員会は地下通路を要望▼今年一月、概算建設費六四億円（内八・四億円は地下通路建設費、その後一〇億円）の骨子案作成▼六月、地下通路の安全性の懸念を指摘され、八月、市は地下通路のほかに上空通路（五億円）地上通路（一千万円）の三案を提示、「上空通路」採用を提案。議会特別委員会の五会派は上空通路、二会派は地上通路を主張するが、上空通路を市に要望を決定▼九月、市は景観審議会建物部会で了解を得たとして、市長は上空通路で実施設計を進めることを表明▼一〇月、景観審議会は市指定の史跡・西惣構跡の上を跨ぐことで金沢の文化的景観を損なうこと、また他の景観保護の観点から再説明を求めた▼一一月、議会と市長は市民の声を重く受け止め再検討を表明▼連絡通路三案が示された八月ごろから新聞投書など市民から批判の声が上がり、某新聞は取材班を編成し議会動向と地元の声や市民、経済界、学識者への取材報道で市民の良識を励ましている▼そもそも議会が無駄な議場移転を市長に要望しなければこんな問題は起きなかった▼商工業者の不況、勤労者の実質賃金は減り続け、雇用形態は変わり、年金は減らされ、介護や医療など社会保障制度改悪され、学生はローン返済が重い。ゴミ回収を有料化するような姑息なことをやめ、第二庁舎建設費六四億円は悲鳴を上げている市民生活に使うべきだ▼第二庁舎の在り方と行政のスリム化を唱えられた竺覚暁先生の姿勢に賛同する。（平）

◎非核の政府を求める会の結成から三〇年、全国各地の会は非核平和宣言自治体の拡大、非核平和自治体行政の前進を粘り強く探求しています。

国際政治では核兵器禁止条約の交渉が目前の政治日程にのぼっています。「核兵器廃絶ヒバクシャ国際署名」を軸に、被爆国日本の草の根から、核保有国と日本など核依存国政府を包囲する世論形成がいよいよ重要となっています。

左記の非核の政府を求める会三〇周年記念シンポジウムでは、石川県における「非核・平和の自治体づくり」について、石川の会事務局長が報告します。ご期待ください。（か）

非核の政府を求める会結成 30 周年記念シンポジウム

開催要項

◆日 時　12 月 3 日（土）10：30～17：00
◆会 場　東京・四谷・主婦会館プラザエフ 7 階

第1部　鼎談
「非核政府の会 30 周年と〝主権者は私たち〟の新たな流れ
―いまこそ草の根からの非核・平和のうねりを―　」
・笠井　亮さん（非核の政府を求める会常任世話人・日本共産党衆議院議員）
・佐々木功悦さん（「みやぎ県民の声」県議会議員・前美里町長）
・林田光弘さん（ヒバクシャ国際署名推進連絡会キャンペーンリーダー・元 SEALD s メンバー）

第2部　シンポジウム
「非核自治体運動の今日的意義と『非核の政府』の展望を語る」
・和田　進さん（神戸大学名誉教授）
・大塚研吾さん（日本非核宣言自治体協議会）
・神田順一さん（非核の政府を求める石川の会事務局長）
・平野正一さん（日本自治体労働組合総連合中央執行委員）

◆主 催　非核の政府を求める会

シリーズ 石川の地域点描 ③

中西　優

海へ続く細かな棚田が美しい輪島市の白米千枚田で今年もイルミネーションイベント「あぜのきらめき」が始まりました。3月中旬まで開催されているとのことで、水田のあぜ道を照らす幻想的な光は一見の価値ありです。

輪島市の白米千枚田「あぜのきらめき」

その一方で近年では棚田を守る農家の方が不足し、地元や県内外の有志の努力で何とか維持している状況だそうです。TPPをめぐって緊迫した状況が続いていますが、このような有名な観光地でさえも農林漁業の衰退が大きな影響を落としているとなると、地域を守るためにも批准すべきではないと思います。

棚田のイルミネーションイベント

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

徳田清子

≪非核平和・掲示版≫

月	日	曜	時	内容	場所
11	23	水・休日	12:50	戦争法廃止　昼デモ	金沢市四高記念公園／教育会館前口
	23	水・休日	13:30	イラクからみる日本 暴力の連鎖の中で考える平和憲法　高遠菜穂子さん	金沢市西念・労済会館3階ホール
	24	木	18:00	過労死等防止対策推進シンポジウム	金沢市鞍月・石川県地場産業センター本館
	27	日	10:00	原発・いのち・みらい講演会「家族・職業・災害」赤城修司さん	金沢市近江町交流プラザ4階集会室
	27	日	11:30	原水爆禁止石川県協議会創立60周年レセプション	金沢市昭和町・平和と労働会館3階ホール
	27	日	12:30	阻止しよう！憲法改悪 許すな！日米戦争体制の強化　11・27石川の集い	金沢市武蔵町・ITビジネスプラザ武蔵6階
12	3	土	10:30	非核の政府を求める会・結成30周年記念シンポジウム	東京・四谷・主婦会館
	3	土	14:00	「資本論」学習会10周年記念講演会　山田敬男さん	金沢市近江町交流プラザ4階集会室
	6	火	12:30	核兵器廃絶6・9署名行動	金沢市武蔵町Mza前
	7	水	12:50	戦争法廃止　昼デモ	金沢市四高記念公園／教育会館前口
	8	木	13:00	不戦のつどい	金沢市・JR金沢駅地下広場
	8	木	18:30	12・8平和を守るつどい	金沢市近江町交流プラザ4階集会室
	10	土	14:00	いしかわ市民連合集会・シンポジウム	金沢市香林坊・石川県教育会館ホール
	15	木	12:00	沖縄連帯を・署名と宣伝行動	金沢市武蔵町・Mza前
	17	日	14:00	原発をなくす石川県連絡会　総会	金沢市武蔵・ITビジネスプラザ武蔵5階
	19	月	16:00	戦争を許さないピースステント	金沢市四高記念公園／教育会館前口
	21	水	12:50	戦争法廃止　昼デモ	金沢市四高記念公園／教育会館前口
	23	金・休日	15:00	医療・福祉問題研究会第125回例会「ハンセン病問題は終わっていない」講師　莇昭三さん、井上英夫さん	金沢市松ヶ枝福祉館4階集会室
1	1	日	10:00	新年核兵器廃絶署名行動	金沢市尾山町・尾山神社前

＊ 祝日は休日とします　＊ 毎週金曜日18：30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊ 毎月１５日石川県沖縄連帯デー